

三条市教育制度等検討委員会最終報告 地域説明会記録（栄中学校区）

- 1 日 時 平成20年5月29日（火）午後7時～午後8時30分
- 2 会 場 栄中央小学校 体育館
- 3 参加者数 12人
- 4 報道機関 なし
- 5 教育委員会出席者  
坂爪教育委員 松永教育長 古川教育部長、池浦教育総務課長、駒澤学校教育課長
- 6 説明会次第
  - (1) 開会あいさつ 松永教育長
  - (2) 最終報告説明 駒澤学校教育課長
  - (3) 質疑、意見等
  - (4) 閉会あいさつ 坂爪教育委員
- 7 質疑、意見等の概要

**発言者 A**

**一貫校の内容について** 一体型、併用型、連携型についてもっと詳しく説明願いたい。

**教育総務課長**

一体型は、小学校1年から中学校3年までの9年間を同じ校舎で勉強するもの。併用型は例えば小学校5、6年生と中学1～3年生が同一の校舎で勉強するもの。連携型はここでは栄中学校、栄北小学校、栄中央小学校、大面小学校の間で、中学校の先生が小学校に英語を教えに行くとか、小学校の児童が週何時間か栄中学校に来て勉強するもので、主にソフト面での連携を図っていくことを指している。

**発言者 A**

**学校行事について** 一体型は小学校、中学校関係なく9年間通すということだが、例えば小学校の卒業式はなくなるのか。

**教育総務課長**

6・3制という現行制度を変えるというのではなく、義務教育9年間を4・3・2の区分の中で実施するものである。6年生になれば小学校の課程を修了し卒業する形になり、9年生になれば中学校の課程を修了し卒業する形は従来と変わりはない。

**発言者 A**

**今後の方向について** 最終的には、市内全部の学校を建替えて一体型にもっていくのか。

**教育総務課長**

教育制度等検討委員会の中で、第一中学校区のみが一体型の提言を受けており、第三中学校区は併用型あるいは連携型のモデル校と提言されている。その他は今のところ連携型を基本に提言されている。

**発言者 A**

栄地区は連携型か。

## 教育総務課長

施設も新しいので、当面は連携型ということで検討させていただくことになると思う。

## 発言者 A

**一貫教育の弊害について** 教職員、子どもたちは小学校、中学校間を行ったりきたりしてロスがあるのではないかと。

## 学校教育課長

栄中学校、栄中央小学校は近いので良いが、大面小学校、栄北小学校になると確かに遠いのでこれからの検討となる。学校の先生方も心配しているので輸送方法を考えていくことになると思う。

## 発言者 A

先生方は忙しくて学校の中を走り回っている状況なのに、そこで更に違う学校へ行くのは意味がないし無駄だと思うのでやめてもらいたい。移動方法を考えるというが距離は縮まらない。距離はどうにもならないが、そこをどう考えているのか。

## 教育総務課長

元々の目的はいきなり中学校へ行くといじめや不登校が増える傾向にあることや、小中教職員の連携をより良くするために、9年間という連続した中で緩やかに中学校へ移行し、最終的に子供たちの学力の向上につなげていこうということである。物理的な移動手段に関しても大きな問題ではあるが、先ほど来の説明や、前段で申し上げたことなどを総合的に捉えていただき判断いただければと思う。

## 発言者 A

**他の方式の検討について** 一貫校にしなくても他の方法でもできるのではないかと。その前にできることがあるはずなので他の方法で考えてもらいたい。

## 学校教育課長

学校や地域の意見を聴きながら、子供たちや先生方の負担を最小限に抑えるような検討や一貫校のメリットを最大限に生かすような検討をしていきたい。

## 発言者 B

**他の事例について** 小中一貫校の実例は他にあるのか。また、うまくいっているのか。

## 学校教育課長

全国的に形はまちまちであるが、117団体で取り組んでいると聞いている。県内では新潟市の女池小学校、上所小学校、鳥屋野中学校での取組がある。また、阿賀野市でも取組がなされている。

## 発言者 B

**一貫教育の弊害について** 中学校の先生は多忙な上に小学校に行ったり来たり移動することは無駄であり、逆に授業ができなくなるのではないかと。学力が向上するとは思えないが。

## 学校教育課長

品川区での国語の点数の数値を見ると向上が見られる。呉市でも学力の向上があるとの報告がある。先生方の多忙はそのとおりだと思っている。人事権は県が持っているので支援をお願い

いし、市でも予算化を図っていききたい。学校の実態、先生の意見を聴きながらできるところからやっていききたい。

#### **発言者B**

**中高一貫について** 小中一貫校よりも中高一貫校をよく聞くのだが、小中一貫をやると中高一貫はやらないのか。

#### **教育部長**

両方やるのは現実的でないと考えている。

#### **発言者C**

**メリットについて** 小中一貫校の一番のメリットは何か。学力向上が一番なのか。

#### **学校教育課長**

今、学校を見ると苦しんでいる子が大勢いる中で、数値で表れる学力だけでなく、仲間と協力することや発表する力などトータル的に考えて向上させる狙いがある。また、先生方の小学校、中学校間の連携を図る狙いもある。

#### **発言者C**

**これまでの経緯について** 保育所は民間への移行を進めている中で小1プロブレムの問題を抱え、保育所の民営化の結果もまだ出ていないのに、なぜ小中一貫になったのか。むしろ中高一貫じゃないのか。決められた経緯をお聞かせ願いたい。

#### **教育部長**

保育所の民営化は結果を見ないと分からないが、民営化によりよくなるように進めなければならぬ。小1プロブレムは全国的な問題であり、これも解決しながら総合的に解決していかなければならぬ問題である。今年度から子育て支援課を教育委員会に置き、小中一貫も検討しながら同時に進めている。

中高一貫は、特に学力の向上がメリットとして挙げられるようだが、小中一貫では義務教育の間に人間としての基礎・基本をしっかりと養うものである。例えば、進学校スタイルではどの大学に何人入ったかで、その学校の優秀性をアピールしている傾向があるが、小中一貫では100人いたら100人の力を高めていくという方向である。子供たちが人間として本来身に付けていかなければならぬ力を付けることが重要と考える。

#### **教育長**

義務教育のうちに基礎・基本を定着させるよう目指している。6・3制をまったく無くすのではなく、9年間の中でしっかりと身に付けていくよう考えている。

燕市の中高一貫校は県立である。高校は県立であり、三条市立の学校と県立の学校との一貫教育は難しい。

小中でどういう連携をしたら子供がよくなっていくのか研究していきたい。先生がお互いに小、中の勉強をシェアすれば、子供たちに対してもメリットがあると思う。

#### **発言者C**

**スケジュールについて** 第一中学校区が老朽化しているので一体型にするとか、第三中学校区を併用型にしていくとか、それだけ聞くといい話だと思うが、人数が少ない栄地区も含め三

条市全体がこうなっていくといくら良い話でも不安となってしまう。例えば、総合学習を例に取ってみると、子どもにとっては良いことだと思って始めたのだろうが、現場が消化しきれずに評価されるべきものが出てこない状態となっている。システムとして押し付けるのではなく、中学校区ごとに中学校の先生、保護者にも教育指導していくべきではないか。

愛知県では、中学校の国語の先生を小学校に派遣し国語力のアップにつなげたり、長野では少人数制にあえて取り組んでいる例もある。しわ寄せは子どもたちに行くので、いきなり小中一貫にすることは少し急ぎすぎているのではないか。まず、もっといろいろな形を大人が勉強をして考えることが大事ではないか。また、急ぐ理由はあるのか。

## 教育長

これから各学校の先生方からも理解いただいて、保護者も含めて理解していくことが大事だと思っている。急ぎすぎでは駄目だと思う。子供たちのためにやるのであって、行政のためにやるのではない。教職員はもとより、地域の方々が意見を述べ合える場を作っていきたい。決してシステムだけ先につくり、それに乗ってくださいというようなやり方はとりたくない。24年というのはあくまでも教育制度等検討委員会の答申内容であり、目標としてもいいがこのようにいくかは分からない。ただ、新しい学習指導要領が全面実施されるのが24年であり、数字的にはそれに合わせようとしている面があるが、その新しいシステムの導入は、地区によって差があってしょうがないと思う。

## 発言者D

**高1ギャップについて** 小学校から中学校に行く環境の変化は、中学校から高校に行ったときにもあるのではないか。

## 学校教育課長

環境の変化はいつの年代でもある。ただ、中1の12歳から13歳の不安定な思春期に大きな変化があることと自我が目覚めた高1での変化とは発達段階が違う。

## 発言者D

中学校は小学校の友達と変わらないが、高校になると全然違うところから集まってくるので、高校1年生のほうが高1ギャップになりやすいのではないか。

## 教育長

中1での段差を乗り越えることも必要という考えもあるが、乗り越えられない人もいるので段差を緩やかにするのが狙いである。小学校、中学校は必ず行かなければならないが、高校は自分で学校を選び、自分の意思で行くわけなので障がいがあっても乗り越えることも必要である。義務教育と高校とでは若干違うと考える。

## 発言者B

**今後の進め方について** 他の学区にも説明に行くわけだが、この説明会で決まりでなく、意見を吸い取ってまた私たちのところに降りてくるのか。

## 教育部長

今の段階では最終報告を受けて地域を回りその意見を聴いている状態だ。学校も33校すべてを回り教職員の意見を聴いている段階である。

**発言者B**

私たちが理解しようがしまいが結論が最終的に出るわけなのか。

**教育部長**

市民全員の意見に沿うような形は無理だが、今までの意見を聴いてまとめることになると思う。地域や学校が全く知らないところで決めてしまい、押し付けるというようなことはしないようにしたい。

**発言者B**

地域が考えていることを先生が吸収して、教育委員会がバックアップしていくことが大事だ。これだけの人数で栄地区全体の意見にはならないと思うので、いろいろな人の意見を聴いてもっとPRし、いろいろな情報を出してほしい。

**教育部長**

本日の分も含め、質問、回答を公開していきたいと考えている。このような質問、意見があったことを今日来れなかった方にもお知らせしたい。

また、コミュニティースクールなど地域の人が直接学校の運営に参加できるようにもなってきているので、地域の方が学校に関心を持つことが学校にとって大きな推進力となっていくと思う。ぜひ、地域の力をいただきたいと思う。

**発言者E**

モデル校があるので何年かやってみて、良かったら三条市全体に広げていったらどうか。

**学校教育課長**

モデル校は一つの手段である。しかし、ある程度見通しを立てた計画がないと動けない。学校や地域の実態に合わせ、やれるとことからやっていきたい。